

線路の中で、2羽の「カラス」が何かを食べていました。

あんまり食べるのに夢中になると、電車の接近に気づかないのではないのでしょうか？

### 写真：線路で何かを食べている2羽の「カラス」

いったい何を食べているのでしょうか...

### 写真：1羽が電車の接近に気づいて...

レールの上で震動を感じ取り、電車の接近具合を探っているかのようです。

### 写真：2羽が飛び立ったすぐ後に電車が通過

### 写真：カラスが食べていたのは...

小型のほ乳類みたいです。「イタチ」でしょうか？

### 写真：しつこく「トビ」にちょっかいを出していたら...

いきなり「トビ」が逆襲、“空中でのけぞる「カラス」”...

「トビ」はタカの仲間の中でも比較的大型で、全長は60 cm超と、「カラス」よりも一回り以上は大きいです。

上空を旋回しながら、動物の死骸やヘビ、トカゲ、カエル、魚などを探し、見つけるとその場所に急降下して捕食しますが、都市部では生ゴミを食べたり、鴨川では弁当の中身をさらっていく個体もいますので、肉食と言うよりは雑食性なのでしょうね。

今回のように、「カラス」にちょっかいを出されている「トビ」の姿を見かけることはよくあるのですが、まさに「犬猿の仲」なのでしょう、この2種が静かに並んでとまっているところを見たことがありません。

「カラス」は自分たちのテリトリーに入ってくるものは、捕食されてしまう危険性のある「オオタカ」であっても、「ネコ」などのほ乳類であっても、追い出そうとしますが、特に「トビ」についてはお互いの食物が似ており競合するからでしょうか、相当執拗に追い立てるようです。

今回は、線路にあった動物の死体を、果たしてどちら（カラス or トビ）が先に確保していたのかはわかりませんが、最終的には2羽の「カラス」が勝ち取ったようで、未練がましくいつまでも近くにとどまっていた「トビ」に対して、「カラス」が追い立てたのかも知れません。

その攻撃があまりにしつこかったので、「トビ」も頭にきて逆襲に出た、というところでしょうか...

ところで、東北地方では、この「カラス」と「トビ」に関する昔話があるようですので、紹介したいと思います。

『 昔は、鳥たちはみんな全身 “ 真っ白 ” だったそうです。

これではまったく見分けが付かないし、親鳥も自分の子どもがわからなくなってしまう、ということで、「染物屋」を開いていた「トビ」に色を付けてもらうことになりました。

鳥たちは皆、先を争って染物屋に並び、思い思いに好きな色で自分の体を染めてもらったのです。

その日、染物屋に並ぶ鳥たちの列は真夜中まで続き、朝から働き続けた「トビ」はもうへとへと…。

最後に現れたのが寝坊して出遅れた「カラス」でしたが、配色にあれこれ細かい注文をつけたので、ついに朝になってしまい、疲れ切った「トビ」は、最後の黒の染め汁を入れた桶を運搬中に転んでしまい、飛び散った染め汁で「カラス」を真っ黒に染め上げてしまったのです。

激怒した「カラス」は “ 阿呆～ 阿呆～ ” と叫びながら、「トビ」を追いかけ回したそうです。

それ以来、「カラス」は「トビ」を見つけるたびに、食ってかかるようになり、一方の「トビ」は、争わないでとっとと逃げてしまうようになったそうです。』



















